NRU
団結
2012年11月29日
第416号
国労仙台総合車両所支部機関紙
発行責任　庄司　修
編集責任　山口　智

国労仙総支部第26回定期大会 報告 パート2

11月3日（土）、利府町・利府コミニティセンターにおいて開催されました仙総支部第26回定期大会での、代議員の発言内容は、各分会での取り組み、組織問題、安全・環境問題、合理化問題等、多くは身近な問題についての発言が目立ちました。今紙面において報告します。

発言内容

◆エルダー組合員が6月に退職し、はじめて健康管理手帳を発行されたと書いてあった。確実に健康管理手帳を習得できる体制を作っていかなければならないと思うが、健康管理手帳の習得について確実に習得できるよう取り組みを。（車体）

◆連休や祝日の動員の場合、組合員には予定があって人数が調整できないこともある。これからは退職者も多くなり、どんどん組織人数が少なくなっているので、動員人数もそれに見合った人数に調整を。（車体）

◆分会では、部外委託に関する職場集会を開催し組合員に周知した。16SPの屋根上作業は、TKKとなったが、P編成全てTKKで屋根上配管からエア漏れがあり、三組では部外委託なので屋根上配管できない。TKKでも屋根上配管は習っていないからできないと言っていたため、車体一科の技官がエア漏れの対応をしたが、配線試験で大扉を開けてCIの配線を調べたいが誰が開けるのかとなり、三組で大扉を開けて確認したが、非常に疑問が残る。（車体）

◆分会では7月に利府コミでビール祭りを若い人を招いて開催。支部ボーリング大会を受けて、10月に分会でもボーリング大会を開催した。（車体）

◆「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」で、コンプレッサーが委託され、10月1日に出向発令がされた。委託後TKKで教育を受けに来た人は、グループリーダー1名だけ。それで一ヶ月教育を受けながら計画を立て一ヶ月後に教育には、別の掛け持ちで来ている。彼らは、しっかりとした技術継承ができるのか不安。（組立）

◆昇進試験の合否発表で、出向者がTKKの支店長に呼ばれ合否の発表を受けた。JRの昇進試験を受けたのになぜ別会社の支店長から結果を聞かなければならないのか？この事をすぐ部社の方に抗議し、総務科や支品科科長に抗議。すぐ支社より謝罪が来た。（組立）

◆エルダー問題。私たちも、機関紙等で実情を伝えているが、今後の運動の中で、労働条件を良くする取り組みを。（組立）

◆組織拡大の集会をエリア組織部長を招き、班ごとに開催した。（台車）

◆キャリパー。12月からTKKでの検修が始まる。11月にやっとラインを作る準備が始まった。昨年度だが、台枠検修を提案しながらできなかったという問題もある。（台車）

◆設備保全、現在2人で働いている。どちらかが休むと一人作業になってしまう。組持ち主任やアドバイザーが臨修対応の代わりをするという問題もある。今になって、出した人を戻してほしいとの声が他労組の主任等から上がっている。（台車）

◆外注化の学習会〔偽装請負〕を支部として計画を。（台車）

◆分会として、10月20日に奥新川で芋煮会を開催した。OBも2名程参加。こうしたレクを企画して組織拡大に結びつけることが必要だと思う。（台車）

◆D51合唱団は、東日本大震災を受けて、様々な活動を展開した。石巻、南三陸町の仮設住宅での支援のコンサートを行い、2月26日、大阪で大阪のサークルと合同で国鉄闘争に対する24年間の支援に感謝と東日本大震災支援のチャリティーコンサートを開催した。そこで義援金が約50万円程集まり、それを5月4日に南三陸町観光協会を通して復興に役立てほしいと贈呈した。（台車）

◆来月12月19日、D51合唱団創立52周年を迎え、国鉄闘争に対する感謝の意を込めてコンサートを開催する。（台車）

◆U編成の半日交検の提案があった。3月にその話はされていたが、会社側の進み具合が悪く、6月に提案された。その提案の中で、検修時間があまりにも短い時間なので、品質の良い車両はできない安全軽視のやり方と意見を出してきた。90分から70分へ。検修時間が7月から午後の半日交検が始まったが、7月6日にU編成のライニングが落失した。全く余裕のない検修時間でこうした失念が出るのは当たり前ではないのかと思う。それから、側板だが1日交検だと1日の時間内に取り外し・取り付けを行うが、半日交検だと時間が取れないので、この側板の取り付けに関しては時間外にJ-TECが部外委託では行い、後検も責任施行でJ-TEC。このような流れで進んでいる。（運転）

◆今年の夏に立体倉庫内の修理があった。その後、ロックウールのひび割れ、落下が相次いでいる。工機整備の上の方を通し、同時にJRの設備に連絡して写真を撮ってもらっている。（運転）

答弁

○健康管理手帳の習得については、退職と同時に自動的に取得できるよう取り組みたい。他の退職者にもアスベストの実態や労災になればこのような保障が受けられると情報を送っていきたい。

○倉庫のロックウールの件。地本アスベスト会議に写真とそのものを持っていった。

新役員

執行委員長	庄司　修	（車体分会）
副執行委員長	阿部　春雄	（運転分会）
副執行委員長	高橋　進	（台車分会）
書記長	遠山　政孝	（組立分会）
執行委員	渡辺　一則	（台車分会）
	武田　忠	（車体分会）
	原田　靖	（車体分会）
	山口　智	（車体分会）
会計監査員	多賀　貴弘	（運転分会）
	野崎　浩亨	（車体分会）

方針（案）を提案する高橋書記長

裏面に続く

地本では、まず落下したものの片付けとロックウールにアスベストが含まれているか調査してほしいと会社に伝えるということになっている。

○コンプの業務委託についての教育計画については報告を受けている。車体一科でも、水揚げに関して時間外に来て教育をしているとか、TKKの方が違う仕事が終わってから教育に来ているといった実態がある。今後も問題を指摘し改善を求めていく。

○車体一科の屋根上の業務委託の際、細かい部分まで指摘し交渉に挑んだが、結局支社は大まかな管理のことしか言わない。現場と大きなギャップがある。

大扉の関係は、どこまで契約されているのかを職場で追求してほしい。

○キャリパーのラインについて。再度、確認する。

○U編成の半日交検について整理交渉の際、会社側に強く言ってきた。その時に会社側は、ライニングの落下も一理あると認めたような言い方だったが、その後窓口間では、関係がないと言っている。今後見極め交渉にむけ反映させていく。

○出向社員への昇進試験発表での会社の対応、支部としても今後このようなことがないように総務科に話をしてきた。

○これからどんどんエルダー組合員が増える。支部としてエルダー担当者を中心に分会の協力を得ながらエルダー組合員を一人にしないい取り組みを強化していく。

○役員のなり手がいない。どの分会もその問題には直面している。支部としても、いかに国労の運動を継承・発展させるのかを基礎から考え直さなければならない。今後も議論していく。

○休日の動員について、支部として、分会に偏りなく割り振っていくつもり。動員の内容について各分会に知ってもらうことも大切。これは大きなこと。

○支部レク。各分会の皆さんの強力がなければ成功裏に終わらなかった。これからも各分会の皆さんに協力をもらい、今後の組織対策に向け取り組んでいく。

地本答弁

○グループ会社と一体となる業務体制のさらなる推進について。10月1日に出向発令がされた。結果的には一名だけの教育者。この事は、交渉の中味と違うと、いうことで10月4日に支社の冬期対策の提案の際に話はしている。

○TKK支店長が来年の3月頃には帰ってもらうと話がされていることを聞き、会社に3年間の原則出向なのに、半年で帰るのなら委託しないでTKKが来て勉強すればいいのではないかと指摘した。支社は、支店長の言った話に関しては「確認させてほしい」と言っている。

○出向者の昇進試験発表がTKKの支店長から言われた件。組立分会から報告があった。地本から強く支社に抗議し、次の日に支社から謝罪が来た。

今後も、何かあれば随時報告をしてもらえれば窓口を通じてやれることをやっていく。

○11月1日付で部品科に出向開けの組合員が配属になった。この方の希望は幹総だったが、10月中旬に希望を聞き、元職場の方が来た。この方はその時に「私は幹総を希望している。叶わなければ出向延長」と伝えたが、もとの職場の方は「基本的に職場に戻ってもらう」と言った。

本人が、地本と相談し、地本が支社と話をした結果、次の日に幹総の配属の事前通知が出された。

◇部外委託で職場の混乱、安全安定輸送を危惧する声、当然多い。毎年「総合車両センター関係業務改善」施策で部外委託が拡大してきた。団体交渉には分会から交渉員を入れてもらい現場の声をきちんと支社に伝えてきた。今年度も見極め交渉を行うため、見極め交渉にむけた要求集約を行い、要求をあげていく。各分会の皆さんには、ご協力を願いする。

◇「グループ会社と一体となる業務体制のさらなる推進」について。本当に確実に後進に技術を継承するのか。会社の姿勢が余りにも無責任。今後の出向や安易な外注化は許さない立場で、団体交渉や現場での行動、要求集約に努めていく。この対策会議が盛岡で開催される。提起を今後の運動に生かしていく。

◇今後の取り組みの中心は、鉄道の安全安定輸送体制の確立にむけた闘いを「仕事総点検運動」を更に強化し、通年的な運動を構築することにある。委託された業務の点検、エルダー組合員の職場を含めたグループ会社の労働条件の改善について、支部分会一体となって取り組みを強化していく。

◇二〇一三年春闘。一人1要求を来春闘でも取り組む。分会運動の活性化という視点において、分会内で要求の根拠を明らかにし問題を共有化し団体交渉に結びつけて行く。また、現場で解決できることは現場でという視点に置きながら、支部・分会共に創意工夫し現場長交渉を取り組む。

◇会社施設を利用した集会等の取り組みついて、支部としてできる限り施設利用を視野に入れた集会等を取り組んでいく。

◇エルダー・出向者組合員の労働条件改善に向けた視野を広げたアンケート調査を、再度取り組みながら春闘を闘う。

更に大衆行動として、3月5日の国労東北総決起集会、3月9日の国労仙台総行動への積極的な参加を要請する。支部としては、3月7日（予定）に総決起集会を予定している。各組合員の結集を要請する。

◇組織の強化・拡大。11月1日付で郡山駅連分会で入社2年目の社会人採用の方が国労に加入した。郡山駅連分会は様々な先進的な運動をしている。彼が国労に加入した理由は、国労は仲間を大切にする組合ということ。そこに私たちの原点がある。原点に戻って支部も組対委員会を中心に運動を広める。私たちは、組合員一人一人が自分が国労に一人入れるんだという意気込みを持って取り組むことが必要。

◇レク活動。何かをやれば何かが見えることはこの間の各分会の取り組みから明らかになっている。総括ができる運動を分会と共に取り組んでいきたい。

◇エルダー組合員を一人にしない運動。エルダー交流会等を開催し、皆さんの意見を聞き問題を会社改善を求める取り組み進める。

◇平和と民主主義を守る闘い。福島第1原発の事故から1年8ヶ月。原発ゼロへ進んでいるようだが見えてこない。労働組合の任務は、先頭に立ち運動を展開していくこと。原発事故は人災。核の平和利用はあり得ない。次の世代へ安心して暮らせる未来を作るため、平和・環境を守る様々な運動に参加していく。

◇労働条件に関する労働協約について、12月1日に地本の学習会が開催される。労働協約はどういうものなのか。多くの参加を。

書記長集約

今後の日程
春闘事務局会議　12月６日（木）

定期大会情報
車体分会　11月30日（金）利府コミ
組立分会　12月 5日（水）利府コミ